

北陸新幹線 県内全線開業に向けた アクションプラン



石川県

はじめに

2015年3月14日の北陸新幹線の金沢開業以降、新幹線の利用者は開業前の約3倍となる高い水準で推移しています。さらに4年目は前年を上回り、JRからは、既に首都圏からの人の流れとして、定着したのではないかとの評価もいただいています。



また、開業に伴う本県への注目度の高まりを背景に、企業進出の増加や県外企業の支店・営業所の開設など経済面でも大きな効果をもたらしているほか、子育て環境が充実しているという魅力が認知され、子育て世帯の移住が増加するなど地方創生の原動力ともなっており、金沢開業前から官民を挙げて本県の特徴を活かした取り組みを推進してきたことが、大きな開業効果につながったものと考えています。

このように、想定を超える新幹線開業効果は、観光面のみならず、多方面に発現しており、改めて、本県の未来を切り拓く極めて有効な交流基盤であることを実感しているところです。

さらに4年後には、本県にとって「第二の開業」である県内全線開業が控えており、本県のさらなる交流人口の拡大に向けて、千載一遇のチャンスが到来します。このチャンスを最大限に活かすため、このたび、県議会での議論、各界各層の代表22名からなる「北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員会」やパブリックコメント等による県民の皆様のご意見を踏まえ、新たなアクションプランを策定いたしました。

このアクションプランでは、金沢開業時に掲げた「おもてなしの向上」、「食文化の魅力向上」、「歴史・景観を活かした地域づくり」の3つの柱を継承しつつ、伝統工芸やものづくり産業の集積、白山や木場潟などの美しい景観といった南加賀地域の特色を活かし、関西・中京圏との時間距離の短縮、東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博など、今後の世界的イベントの開催といった状況の変化を見据えながら、その効果を県内全域に波及させていく取り組みを、加速させていくこととしています。

来年度からはアクションプランの実行段階に入ります。金沢開業時と同様に「開業企画課」を設置し、開業準備を進める体制を強化するとともに、県民の皆様、企業・経済界、市町など幅広い分野の方々と連携し、全県一丸となって、アクションプランを推進してまいります。

おわりに、アクションプランの策定にあたり、貴重なご意見、ご協力を賜りました県民の皆様、関係各位に心から感謝申し上げます。

2019年3月

石川県知事 谷本 正憲

目次

はじめに

| | | |
|------------|--|----|
| 第1章 | アクションプランの策定にあたって | 1 |
| 1 | アクションプラン策定の背景 | 2 |
| 2 | アクションプラン策定の趣旨 | 2 |
| 3 | アクションプランのポイント | 4 |
| 第2章 | アクションプランの施策概要 | 7 |
| 1 | 施策体系 | 8 |
| 2 | 施策の概要 | 10 |
| | Ⅰ 地域資源の発掘・磨き上げによる魅力や満足度の向上 | 10 |
| | Ⅱ 国内観光客向けのPR・情報発信の強化 | 23 |
| | Ⅲ 国外観光客向けの対応の充実 | 26 |
| | Ⅳ 開業効果の多方面への波及、交流基盤づくり | 31 |
| 第3章 | アクションプランの実現に向けて | 35 |
| 1 | 多様な主体との連携・協働 | 36 |
| 2 | 推進体制 | 37 |
| 第4章 | 参考資料 | 39 |
| 1 | 北陸新幹線金沢開業について | 40 |
| | (1) 金沢開業の概要 | 40 |
| | (2) 開業による主な効果 | 41 |
| | (3) 想定外の効果 | 42 |
| | (4) 観光面以外の主な効果 | 42 |
| 2 | 北陸新幹線建設に関する主な経緯 | 44 |
| 3 | 北陸新幹線敦賀延伸開業について | 45 |
| 4 | 北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員名簿 | 46 |
| 5 | 策定の経緯 | 47 |

第1章

アクションプランの
策定にあたって

1 アクションプラン策定の背景

- 北陸新幹線金沢開業時には、官民が連携して取り組むアクションプランとして「STEP21」を2009年3月に策定した。
- プラン策定後においては、STEP21の3つの柱である「おもてなしの向上」、「食文化の魅力向上」、「歴史・景観を活かした地域づくり」に沿って、官民を挙げて開業準備に取り組んだ。
- こうした取組みの結果、開業1年目の北陸新幹線の利用者が約926万人と開業前の在来線特急と比べ約3倍となり、開業2年目、3年目も約2.7倍を維持していることなどをはじめとして、大きな効果が多方面に発現し、持続している。

2 アクションプラン策定の趣旨

- 本県にとって「北陸新幹線県内全線開業」は、「第二の開業」であり、単なる交通手段の一延伸に止まらず、「南加賀地域をはじめとする石川県の、まだまだ隠された素晴らしい魅力」を、「全国に改めて発信」し、「より一層の人を呼び込む」ことで、県内全域の振興を図る絶好のチャンスである。
- このチャンスを活かすためには、金沢開業時に掲げた3つの柱を継承しつつ、まずは、南加賀地域を中心とする各地域の資源の発掘や磨き上げをしっかりと行う必要がある。その上で、社会情勢の変化にきちんと対応しながら、様々な形で、国内外にその魅力を発信することで、「第二の開業」と呼ぶにふさわしい効果を生み出していくことが重要であり、このような観点から、アクションプランを策定する。

【アクションプランの策定に当たって踏まえる視点】

○ 現状

- 金沢開業により想定を超える効果・想定外の効果が発現し維持されている。
【想定超】新幹線利用者、観光客、外国人旅行者の増 等
【想定外】東北からの観光客、レール&クルーズの定着、県外企業の進出、子育て世代の移住の増 等
- 県内全線開業及び新たな開業駅の全国的認知度が低い。

○ 県内全線開業を取り巻く状況

【県内全線開業による環境変化】

- 南加賀地域に新幹線駅ができ、首都圏が直通で結ばれる。
- 関西圏、中京圏との時間距離が短縮される。
- 北陸三県で新幹線が開業する。
- 小松・羽田便と北陸新幹線がより競合する。

【南加賀地域の特色】

- 温泉地が集積、白山麓の豊かな自然、木場潟周辺からの美しい眺望景観
- ものづくり産業が集積、伝統工芸が盛ん 等

【近年の社会情勢】

- 国を挙げた観光立国施策の推進による全国的な外国人観光客の急増
- スマートフォンの普及等、ICTの急速な発達 等

3 アクションプランのポイント

I 地域資源の発掘・磨き上げによる魅力や満足度の向上

ポイント 3つの柱に沿って、延伸地域をはじめ、各地域の特色を活かした受け地の地域資源の発掘・磨き上げに取り組む。

おもてなしの向上

旅行者の満足感を高める魅力ある観光地づくり

- ・伝統工芸、ものづくり産業等を活用した体験型観光プログラムの開発、旅行商品化
- ・おもてなし人材の確保・育成や働きやすい環境づくり

食文化の魅力向上

- 1 食文化の魅力を堪能できる機会の充実
 - ・本県の食の魅力を活かした誘客拡大
- 2 県産食材の魅力拡大による「いしかわ」ならではの味覚づくり
 - ・本県の特色ある農林水産物のブランド価値の向上

歴史・景観を活かした地域づくり

- 1 「いしかわ」の優れた歴史・景観の磨き上げ
 - ・温泉地を含む街並みなどの観光資源、白山眺望などの景観資源の保全と魅力向上
 - ・民間との連携による里山再生に向けた木場湯公園東園地の整備促進
 - ・金沢城公園鼠多門・鼠多門橋の復元整備、二の丸御殿の復元を前提とした調査検討、国立工芸館の移転整備
 - ・金沢港の機能強化整備、レール&クルーズの定着
- 2 歴史・景観の魅力に触れる機会の充実
 - ・加賀百万石回遊ルートの形成と魅力発信
 - ・多言語に対応した解説アプリによる魅力発信

II 国内観光客向けのPR・情報発信の強化

ポイント 延伸による新たな強み（関西圏、中京圏との時間距離の短縮、北陸三県で新幹線が開業）を活かし、戦略的なPR・情報発信に取り組む。

本県を核とした広域周遊観光を促進するための効果的なプロモーションの強化

- ・関西圏、中京圏等でのPR強化
- ・北陸三県等の連携による広域周遊観光の促進（北陸デスティネーションキャンペーンの実施）

III 国外観光客向けの対応の充実

ポイント 国の海外誘客の取組み、東京オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博等、開業前後の大規模イベントの開催を見据え、国外観光客向けの対応の充実を図る。

- 1 外国人観光客の受け入れ環境の充実
 - ・キャッシュレス対応の促進
- 2 東京オリンピック・パラリンピック開催とその後を見据えた情報発信
 - ・新たなゴールデンルートの定着
 - ・小松・香港便等、国際定期路線を活用した周遊観光の促進

IV 開業効果の多方面への波及、交流基盤づくり

ポイント 開業効果の多方面への波及、開業効果を下支えする交流基盤の整備に取り組む。

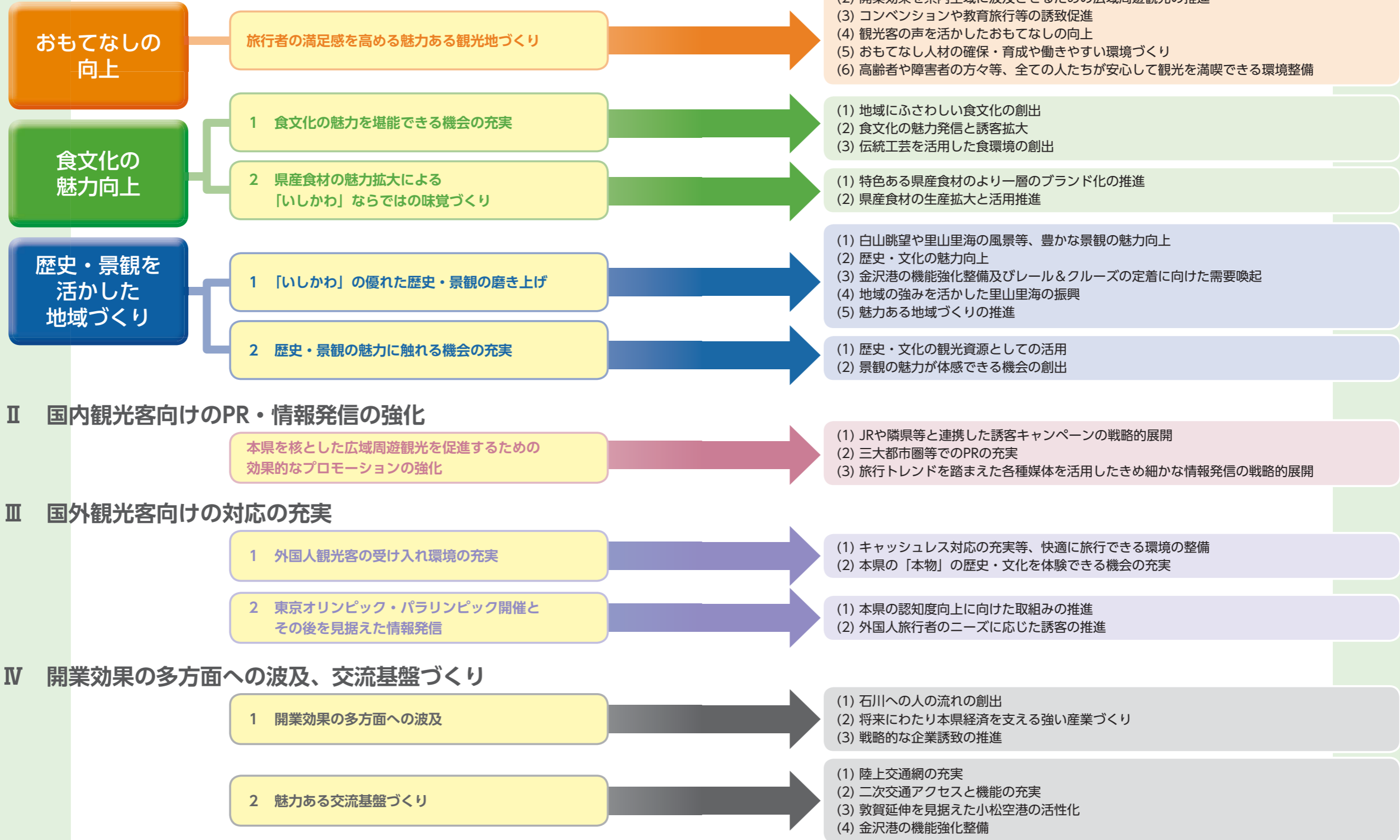
- 1 開業効果の多方面への波及
 - ・戦略的な企業誘致の推進
 - ・Uターン就職の推進
 - ・企業の生産向上に向けたAI・IoTの導入支援
 - ・移住・定住の促進
- 2 魅力ある交流基盤づくり
 - ・「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想の推進（国道8号、のと里山海道の4車線化、加賀海浜産業道路等の整備促進）
 - ・敦賀延伸を見据えた小松空港の活性化

第2章

アクションプランの 施策概要

1 施策体系

I 地域資源の発掘・磨き上げによる魅力や満足度の向上



2 施策の概要

I 地域資源の発掘・磨き上げによる魅力や満足度の向上

おもてなしの向上

2023年春の県内全線開業に向け、新幹線が延伸する南加賀地域をはじめとした県内全域での観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出を図り、観光客の満足度を高める「おもてなし」を充実させることにより、「石川」に一度だけでなく、繰り返し訪れる「石川ファン」を増やす。

旅行者の満足度を高める魅力ある観光地づくり

伝統工芸やものづくり産業の集積といった「石川らしさ」を活用し、新たな観光素材の発掘、磨き上げの強化を図る。

また、観光客の声を県全体のおもてなしの向上に活かすとともに、次代の石川の観光産業を担う人材の育成等に取り組む。

(1) 旅行トレンドを踏まえた、地域の観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進

■伝統工芸、ものづくり産業の集積といった地域の特色を活かした体験型観光プログラムの開発、旅行商品化に戦略的に取り組む。

- ・「いしかわ旅行商品プロモーション会議」による県内各地域の観光素材の発掘・磨き上げ、旅行商品化
- ・専門家派遣による体験型観光素材の開発支援等を通じた、各地の体験素材等をストーリーでつなぐ旅行商品の造成

(2) 開業効果を県内全域に波及させるための広域周遊観光の推進

■加賀・能登・金沢、それぞれのエリアにおける魅力アップのための広域イベント等を展開・支援する。

- ・北陸新幹線金沢開業5周年記念イベントの実施
- ・2023年に加賀立国1200年を迎えることも踏まえた「加賀の國」広域イベントの充実
- ・「能登ふるさと博」の充実
- ・ゲートウェイとなる金沢において新たな魅力を創出するイベントの実施
- ・郵便局と連携した風景印スタンプラリーの拡大



九谷焼



能登町・あばれ祭り

■加賀・能登エリアへの周遊型観光の旅行商品化を促進する。

- ・「いしかわ旅行商品プロモーション会議」等で提案した観光素材を活用した、加賀・能登エリアの旅行商品づくりへの支援

(3) コンベンションや教育旅行等の誘致促進

■「石川県コンベンション誘致推進事業補助金」制度を活用し、金沢コンベンションビューローと連携して戦略的なコンベンションの誘致を図る。

■アフターコンベンションとして、本県の誇る歴史や伝統文化等を活かした魅力ある旅行プランを提案し、参加者の県内観光を促進する。

■三大都市圏等からの教育旅行の誘致を促進するとともに、受け入れ体制の強化を図る。

- ・東日本誘客推進室や西日本誘客推進室を拠点とした積極的な誘致活動の展開
- ・宿泊施設での受け入れ研修の実施
- ・大手旅行会社担当者の招聘による教育プログラムの充実

■スポーツ合宿の誘致を図る。

(4) 観光客の声を活かしたおもてなしの向上

■観光案内機能の充実を図る。

- ・金沢都心部における観光案内拠点の設置
- ・観光案内所等におけるきめ細かな機能・サービスの充実
- ・観光案内所職員のスキルアップ、観光ボランティアガイドの育成

■アンケート調査により収集した観光客の声を、関係事業者に提供することで速やかな改善を図るとともに、観光業界全体で共有することで、県全体のおもてなしの向上を図る。

- ・お客様の声を活かすおもてなし向上事業の実施



コンベンション



教育旅行（能登の民泊）



石川県金沢観光情報センター

■県民一人一人に、おもてなしの心で交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣づけるよう呼び掛ける。

- ・右左折時や進路変更時の早めの合図を促す「早めの合図30・3（サンマル・サン）運動」等の推進

(5) おもてなし人材の確保・育成や働きやすい環境づくり

■次代の石川の観光産業を担う人材の確保、育成・充実に取り組む。

- ・いしかわ観光創造塾の開催
- ・「いしかわ就職・定住総合サポートセンター」を活用した人材の確保

■県民や企業、各種団体を対象とした研修会を開催し、県民のおもてなし意識向上を図る。

- ・観光おもてなし講座の開催

■働きやすい環境づくりに向けてAI・IoT等の導入を通じた業務の省力化・効率化の支援を図る。

(6) 高齢者や障害者の方々等、全ての人たちが安心して観光を満喫できる環境整備

■ユニバーサルツーリズムを推進する。



いしかわ観光創造塾

食文化の魅力向上

「食」は観光客を惹き付ける重要な要素であることから、県産食材のさらなるブランド価値向上や地域に根差した「食」の認知度向上を図り、食の魅力に厚みを持たせるとともに、国内外への発信を戦略的に展開し、誘客の拡大を図る。

さらに、本県の豊かな食の拡大や、歴史と伝統に裏打ちされた本県の食の総合力に磨きをかける取組みを進める。

1 食文化の魅力を堪能できる機会の充実

地域に根差した「食」の認知度向上を図るほか、本県の豊かな食や食文化を活用した旅行商品を造成するなど、旅行者の食に対するニーズの受け皿を充実させるとともに、それらを積極的にPRすることにより、誘客の拡大や満足度の向上を図る。

(1) 地域にふさわしい食文化の創出

■地域ならではの「食」ブランドの周知・定着を促進する。

- ・海女採り魚介類のブランド化推進
- ・能登弁、白山百膳等の周知・定着
- ・いしかわ食のてんこもりフェスタの開催
- ・「いしかわジビエ」の認知度向上、販路開拓の促進



輪島の海女漁

■地域ならではの食材を活用した製品開発・販路開拓を支援する。

- ・いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドを活用した商品開発の支援
- ・流通産業との連携による県産食材を活用した商品づくり
- ・食品産業等と連携した新たな加工技術の確立・普及
- ・6次産業化に向けたビジネスプランの作成やノウハウ取得支援



ファンドを活用した商品化事例

(2) 食文化の魅力発信と誘客拡大

■本県の食の魅力を活かした誘客の拡大を図る。

- ・ふぐやかニ、地酒等、地域の「食」ブランドを活用した誘客の取組み支援
- ・「いしかわ旅行商品プロモーション会議」による県内各地域の観光素材の発掘・磨き上げ、旅行商品化
- ・いしかわスイーツ博の開催、いしかわ食のてんこもりフェスタの開催等



食を活かした誘客キャンペーン



シドニーでの食文化提案会

■本県の豊かな食材、器としての伝統工芸等、歴史と伝統に裏打ちされた食文化の総合力を国内外で戦略的に発信する。

- 日本外国特派員協会でのフェアの開催
- アンテナショップでの魅力発信の強化
- 海外での食文化提案会等での魅力発信

(3) 伝統工芸を活用した食環境の創出

■器や調度品等への伝統的工芸品の活用を促進し、本県の食文化を堪能できる場の充実を図る。

- 伝統的工芸品の開発支援



輪島塗

2 県産食材の魅力拡大による「いしかわ」ならではの味覚づくり

本県の特色ある県産食材について、プレミアム規格の新設によるブランド価値の向上や、意欲ある産地のブランド化支援等、質の向上を図るとともに、生産量や品目を拡大する取組みを、戦略的に推進する。

(1) 特色ある県産食材のより一層のブランド化の推進

■ルビーロマンや能登牛等、本県の特色ある農林水産物のさらなるブランド価値の向上を図る。

- プレミアム規格の新設、首都圏でのトップセールス等



首都圏でのトップセールス

■意欲ある産地のブランド化等の取組みを支援する。

- 新たなブランド食材の育成(いしかわネクストブランド食材)
- 特別栽培農産物認証制度、いしかわGAPの普及推進、知的財産制度の活用

■他産地との差別化を図る石川オリジナル品種の開発と定着を促進する。

- 大吟醸用酒米「石川酒68号」、エアリーフローラ(純白新品種)

(2) 県産食材の生産拡大と活用推進

■商品化率の向上を図るとともに、市場ニーズに対応した技術開発を推進する。

- ルビーロマン日照量判定ソフト、能登とり貝安定生産支援システム等

■生産拡大に向けた取組みを支援する。

- 農業機械・施設の導入支援

■特色ある県産食材が堪能できる機会の充実を図る。

- 地産地消交流会の開催による料理店での活用促進
- 奥能登直行便・中能登直行便の実施

■県産食材の魅力を首都圏等に発信し、販路の拡大を図る。

- いしかわ百万石マルシェの開催、いしかわ食の親善大使による情報発信



いしかわ百万石マルシェ



いしかわ食の親善大使



特別栽培農産物認証マーク



能登とり貝

歴史・景観を活かした地域づくり

先人たちが築き上げてきた質の高い歴史・文化や豊かな自然景観、文化的景観は、本県の魅力の礎であり、県内全線開業に向け、これらのさらなる磨き上げに取り組み、「本物」の魅力を含養するとともに、その魅力を堪能できる環境を整える。

1 「いしかわ」の優れた歴史・景観の磨き上げ

温泉地を含む歴史的な街並みや、白山眺望、里山里海の風景等、多彩な地域資源の保全・創出を図るとともに、金沢城公園や東京国立近代美術館工芸館等、歴史・文化の発信拠点の整備を着実に進め、本県の歴史・景観のさらなる磨き上げを図る。

また、世界農業遺産「能登の里山里海」等の地域の強みを生かしたスローツーリズムの推進等、里山里海の振興を図る。

(1) 白山眺望や里山里海の風景等、豊かな景観の魅力向上

■温泉地を含む街並み、白山眺望や里山里海の風景等、多彩な地域資源の保全・創出を推進する。

- 温泉地の魅力向上
- 新幹線沿線における景観の保全と新幹線の車窓から望む景観の魅力発信
- 民間との連携による里山再生に向けた木場潟公園東園地の整備促進
- 全国唯一である車で走行可能な千里浜海岸の砂浜の保全及び観光資源としてのさらなる活用

■観光資源としての「みちの価値」を高めるとともに、能登・金沢・加賀各地域を巡る回遊性を向上する。

- 観光地等での無電柱化を核とした街並み景観の形成
- 観光周遊道路における周辺景観に調和した防護柵の設置
- 魅力ある自転車通行環境の整備
- 外国人観光客を含め、誰もがわかりやすい道路案内・交通情報の提供
- 道の駅等の休憩施設の機能拡充



木場潟から望む白山眺望



千里浜なぎさドライブウェイ



無電柱化を核とした街並み景観の形成（山中温泉ゆげ街道）

■地域が取り組む沿道の景観対策や道路美化活動等のまちづくりを推進する。

- 地元のまちづくり協議会等との協働による、沿道の街並みと一体となった道路整備の推進
- 地域住民・企業と連携した沿道の飾花・美化活動の推進



地域住民・企業と連携した沿道の飾花・美化活動

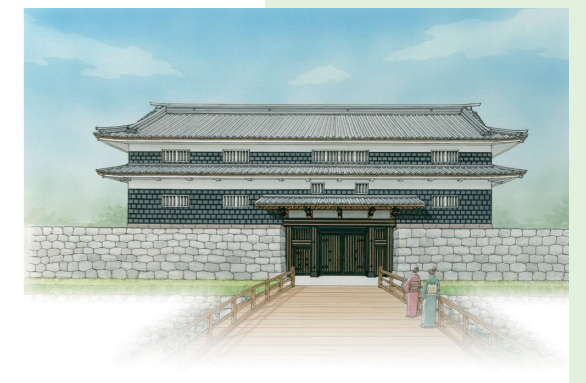
(2) 歴史・文化の魅力向上

■歴史・文化を堪能できる施設の整備を進める。

- 史実を尊重した本物志向での金沢城公園の復元整備の促進（鼠多門・鼠多門橋の復元整備、二の丸御殿の復元を前提とした調査検討）
- 日本海側初の国立美術館となる東京国立近代美術館工芸館の移転整備の推進
- 能登歴史公園の整備促進



東京国立近代美術館工芸館



金沢城公園 鼠多門



金沢城公園 鼠多門橋

■本県の優れた伝統芸能・伝統工芸を次代に継承し、さらなる発展につなげる。

- 能楽、日本舞踊等、伝統芸能の担い手の技能を磨く場の確保や保存団体の活動支援
- 伝統的工芸品の販路開拓や新分野進出支援、伝統工芸の次代を担う若手後継者の育成

■有形・無形文化財や民俗文化財等の歴史的文化遺産の発掘や、その適切な保存、活用を進める。

- 文化財指定の促進
- 重要伝統的建造物群保存地区の選定の促進
- 重要無形民俗文化財「輪島の海女漁の技術」等の維持・継承
- 文化財の保存・修復技術の継承
- 文化財の活用の促進

■日本遺産、いしかわ歴史遺産等本県の魅力を伝える歴史的なストーリーを発信する。

- 日本遺産の「能登のキリコ祭り」、「小松の石文化」、「北前船寄港地・船主集落」等の歴史的文化遺産の魅力発信
- いしかわ歴史遺産の認定及び「3つの寺院群と茶屋街～歩く・観る・祈る～」(金沢市)、「大聖寺十万石城下町～江戸時代の町絵図で歩ける町～」(加賀市)等の認定ストーリーの魅力発信



青柏祭の曳山行事



重要伝統的建造物群保存地区 (白山市白峰)



小松の石文化 (石切り場)



北前船寄港地・船主集落 (橋立)

(3) 金沢港の機能強化整備及びレール&クルーズの定着に向けた需要喚起

■金沢港の機能強化整備を促進する。

- 金沢港クルーズターミナル、港内道路、駐車場、緑地の整備

■クルーズターミナルを金沢港の賑わい創出の拠点とするため、様々な工夫を講じる。

- 「セミナールーム」、「学習・体験ルーム」、レストラン等の設置
- ライトアップによる夜間景観の創出

■金沢港を発着地とするクルーズ船の定着に向け、レール&クルーズの需要喚起を図る。

- 三大都市圏でのPR強化

■横浜港等、他港とも連携し、クルーズ船の戦略的な誘致を進める。

(4) 地域の強みを活かした里山里海の振興

■世界農業遺産「能登の里山里海」をはじめとする多様な地域資源を活用した生業づくりの支援と魅力発信に取り組む。

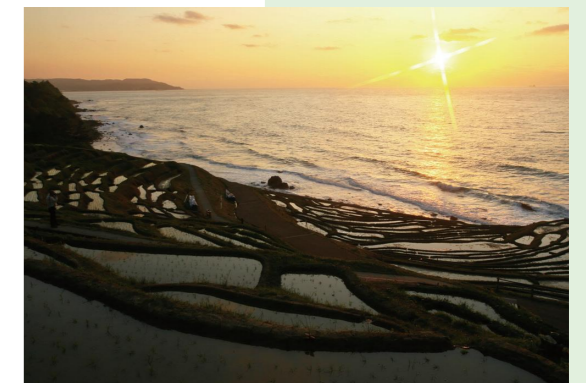
- 世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力発信
- 里山振興ファンドによる生業の創出支援
- 民間との連携による里山再生に向けた木場潟公園東園地の整備促進



金沢港クルーズターミナル



金沢港と横浜港の連携協定締結 (2018年11月)



能登の里山里海



スローツーリズム

■スローツーリズムの取組み等により、人を呼び込む農山漁村づくりを推進する。

- サポートデスクによる農家民宿の開業相談から経営指導までの一貫支援や誘客の促進
- モデル的な取組みや新たな滞在メニュー開発への支援

■里山里海の保全活動への参画を促進し、取組み拡大を支援する。

- いしかわ版里山づくりISOの推進、いしかわグリーンウェイの実施

(5) 魅力ある地域づくりの推進

■地域に誇りと愛着を持ち、自主的・主体的に行う地域づくり活動の核となる担い手の育成を進める。

- 地域づくり人材を育成するための研修の実施

■地域づくり団体のネットワークづくりを推進する。

- 地域づくり団体の交流機会の提供、先進的な地域づくり活動を行っている個人や団体の紹介支援

■専門家の助言による地域づくり活動への支援を推進する。



里山保全活動



地域づくり人材育成研修

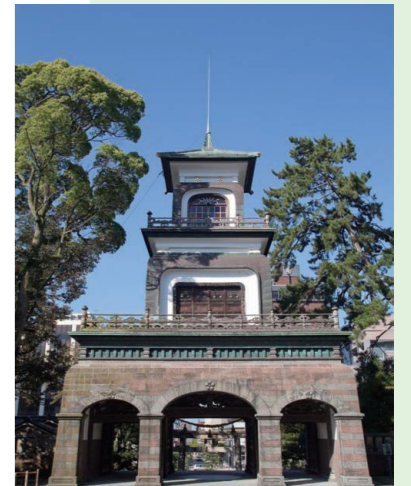
2 歴史・景観の魅力に触れる機会の充実

多彩な伝統工芸や芸能、祭り等の本県の豊富な歴史・文化資源や、新幹線沿線の眺望を含む豊かな景観資源を積極的に活用し、それらを活かしたイベントや旅行商品を充実させることにより、歴史・景観の魅力に触れる機会の充実を図る。

(1) 歴史・文化の観光資源としての活用

■工芸、芸能、祭り、食等、石川の豊かで質の高い「本物」の文化の魅力を国内外に発信し、誘客を促進する。

- 加賀百万石回遊ルート形成と多言語に対応した解説アプリによるルートの魅力発信
- 東京国立近代美術館工芸館など兼六園周辺文化施設の連携による多彩な文化イベントや国際北陸工芸サミット（仮称）の開催
- 首都圏アンテナショップや大規模イベント等における伝統工芸や食文化、祭り等のPRの実施
- 「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」の開催



加賀百万石回遊ルート（尾山神社）

■石川の優れた文化の魅力を活かしたテーマ性の高い旅行商品の造成を推進する。

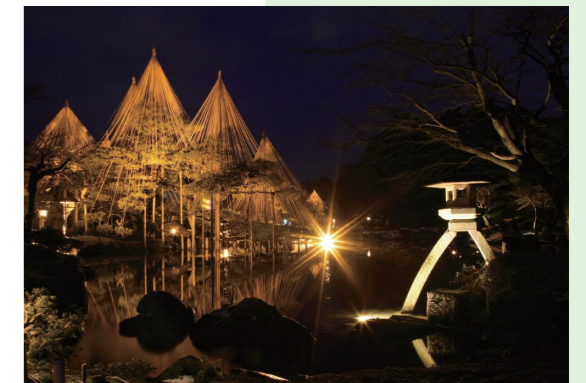
- 日本遺産の「能登のキリコ祭り」、「小松の石文化」、「北前船寄港地・船主集落」やいしかわ歴史遺産等の歴史的文化遺産を活用した旅行商品の造成推進

■四季折々の金沢城公園、玉泉院丸庭園、兼六園の夜の魅力が堪能できるイベントを開催し、金沢城の魅力を発信する。

- 「金沢城・兼六園四季物語」の展開

■能楽や邦楽、茶屋文化等、石川ならではの伝統芸能のイベント開催等により、交流人口の拡大に取り組む。

- 観能の夕べ、金沢芸妓の舞の開催



金沢城・兼六園四季物語



観能の夕べ（能楽堂）



あぜのきらめき（白米千枚田）



サイクリング環境の整備

(2) 景観の魅力が体感できる機会の創出

■魅力ある景観を活用し、観光誘客の拡大を図る。

- 新幹線沿線における景観の保全と新幹線の車窓から望む景観の魅力発信
- 木場潟公園西園地の自然を活かしたライトアップによる夜間の魅力創出
- 加賀百万石回遊ルートでのライトアップによる夜間景観の創出
- 白米千枚田「あぜのきらめき」、白山白川郷ホワイトロードウォーク、白山一里野イルミネーションの実施
- 里山里海の魅力を体感できるサイクリング環境の整備と利活用の促進
- 全国唯一である車で走行可能な千里浜海岸の砂浜の保全及び観光資源としてのさらなる活用

II 国内観光客向けのPR・情報発信の強化

北陸新幹線が敦賀まで延伸することにより、北陸三県で新幹線が開業することや、県内に新たに2つの新幹線駅ができ首都圏と直通で結ばれること、関西圏、中京圏との時間距離が短縮されること等を活かし、国内誘客の拡大を図る。

本県を核とした広域周遊観光を促進するための効果的なプロモーションの強化

北陸新幹線県内全線開業により、北陸三県で新幹線が開業すること等を踏まえ、北陸三県やJRと連携して、広域周遊観光に取り組むとともに、首都圏に加え、関西圏、中京圏でのPRを充実させ、誘客の拡大を図る。

また、ICT等を活用し、旅行トレンドを踏まえたきめ細かな情報発信を展開する。

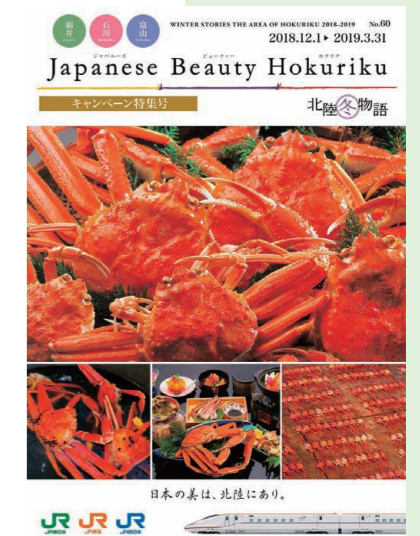
(1) JRや隣県等と連携した誘客キャンペーンの戦略的展開

■JRと北陸三県が連携した北陸エリアでの広域周遊観光を促進するためのキャンペーンを実施する。

- 四季折々の観光魅力を最大限活かした通年キャンペーンの実施（「日本の美は北陸にあり。」キャンペーン、ジャパニーズビューティー北陸キャンペーン）
- 北陸新幹線金沢開業5周年キャンペーンの実施
- 北陸デスティネーションキャンペーンの実施

■北陸新幹線沿線県等と連携し周遊観光を促進するためのキャンペーンを実施する。

- 各県との相互の観光情報の発信（観光案内所での観光パンフレットの相互配架、観光プロモーションの共同実施等）
- 白山白川郷ホワイトロードの利活用の促進
- 環白山広域観光推進協議会、加賀越前広域観光推進協議会による観光プロモーション



ジャパニーズビューティー北陸キャンペーン（2018年度）



左 プラチナルート白山周遊キャンペーン（2018年度）
右 越前加賀じゃらん（2018年度版）



大手自動車販売会社と連携したキャンペーン（名古屋）

■交通事業者等と連携したターゲットを絞った誘客キャンペーンを実施する。

- JRと連携したファミリー層向けの企画ツアーの実施
- マイカー利用者向けのキャンペーンの実施（大手自動車販売会社やJAF、中日本高速と連携した中京圏からの誘客キャンペーン、JAFと連携した関西、中京圏からの誘客キャンペーン）
- 大手旅行会社と連携した関西、中京圏からの団体旅行（企業の周年記念旅行など）誘致キャンペーンの実施
- 食や温泉等の本県の強みを活かした「女性」や「アクティブシニア」向け誘客キャンペーンの実施

(2) 三大都市圏等でのPRの充実

■首都圏に加え、関西圏、中京圏でのPRを強化するとともに、金沢開業により交流が拡大した東北地方でのPR等を実施する。

- 大規模イベント等への出展
- 百貨店での「いしかわ百万石物語展」の開催
- 大手企業本社等での「いしかわ百万石物語展」の開催
- JRや大手私鉄グループと連携した誘客プロモーション
- JRや日本郵便と連携した東北地方での情報発信
- 大手旅行会社主要店舗への「いしかわ観光コンシェルジュ」の配置による誘客推進

■観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」を活用したPRを強化する。

- マスメディア、ホームページ、イベント等を通じた情報発信の強化



ひやくまんさん



いしかわ百万石物語展 阪急うめだ

(3) 旅行トレンドを踏まえた各種媒体を活用したきめ細かな情報発信の戦略的展開

■SNSや旅行予約サイト等、急速に利用が拡大しているICT等を活用し効果的な情報発信に取り組む。

- SNS広告等による誘客プロモーション
- 県内イベントでのInstagram投稿キャンペーン
- 観光情報のポータルサイトとしての県観光ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の内容充実

■観光客のニーズや嗜好に応じて情報を絞った、きめ細かな観光ガイドブックを作成する。

- 初めて本県を訪れる観光客向けガイドブック「ちょっと石川」、リピーター向けガイドブック「もっと石川」等、体験型観光等目的を絞った観光ガイドブックの作成

■石川にゆかりの深い人や石川ファンを通じた口コミによる情報発信に取り組む。

- 石川県観光大使、いしかわ観光特使・県人会会員等による情報発信



SNSでの情報発信



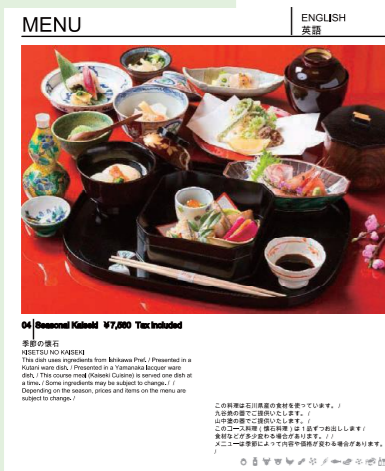
ちよっと石川、もっと石川

Ⅲ 国外観光客向けの対応の充実

国をあげた観光立国施策の推進により外国人観光客が急増し、県内全線開業前後には、第32回オリンピック競技大会（2020 /東京）・東京2020パラリンピック競技大会をはじめ、大規模な国際イベントが相次いで開催されることを踏まえ、国外観光客向けの対応の充実を図る。

1 外国人観光客の受け入れ環境の充実

外国人観光客が快適に旅行できる体制を整え、本県の「本物」の歴史・文化を堪能できる環境を充実させることにより、訪日外国人に選ばれる観光地づくりを推進する。



外国語メニュー作成サイト

(1) キャッシュレス対応の充実等、快適に旅行できる環境の整備

■アンケート調査の実施と、その結果を踏まえた受け入れ環境の充実を図る。

- キャッシュレス対応の促進
- 無線LANの充実
- 飲食店メニュー等の多言語化の促進
- 外国人向けガイドサービスの充実
- 電話通訳サービスの提供によるコミュニケーションの円滑化
- 外国人の多様な食嗜好への対応の充実

■おもてなしの向上のための人材育成を図る。

- 外国人観光案内所の拡充及び連携強化（定期的な情報交換会、研修の実施等）
- 通訳ガイド研修（通訳案内士、地域ガイド、ボランティアガイド）



通訳案内士による観光案内

■外国人旅行者の県内における周遊観光を促進する。

- 外国人旅行者向けドライブマップの作成等レンタカー利用による周遊観光の促進

■災害発生時の安全確保を図る。

- 国が作成する緊急時の初動対応マニュアルの周知徹底

(2) 本県の「本物」の歴史・文化を体験できる機会の充実

■本県の伝統文化に気軽に触れることができる機会の充実を図る。

- 外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業の実施（能、茶屋文化）等
- 多言語に対応した解説アプリによる観光情報の発信

■海外MICEの誘致を促進する。

- 東京都と連携した海外MICEの誘致強化（MICE見本市への出展、キーマンの招聘）
- 特別感のある会場施設（ユニークベニュー）の提案充実



外国人向け伝統芸能鑑賞システム

2 東京オリンピック・パラリンピック開催とその後を見据えた情報発信

第32回オリンピック競技大会（2020 /東京）・東京2020パラリンピック競技大会をはじめ、県内全線開業前後に相次いで開催される大規模な国際イベントを見据え、海外において本県の認知度向上に向けた戦略的なPR活動を展開し、北陸新幹線沿線自治体等との連携による新たなゴールデンルートの定着を図ることにより、本県へ誘客拡大を図る。

(1) 本県の認知度向上に向けた戦略的な取組みの推進

■現地での積極的なPR活動を実施する。

- 海外旅行博覧会出展、海外メディア・ブロガーの招聘（SNSの活用）、観光セミナー開催等

■本県のネットワークを活用したPR活動を実施する。

- 県の海外事務所、石川県観光親善大使、留学生、海外県人会、県海外進出企業等のネットワークを有効活用した情報発信

■多言語による情報発信ツールの内容を充実させ、本県の奥深い魅力を広く海外に発信する。

- 多言語によるホームページ、パンフレットの充実
- 世界最大の動画サイト「YouTube」を活用した本県の魅力発信



海外旅行博への出展

(2) 外国人旅行者のニーズに応じた誘客の推進

■北陸新幹線等、充実した交通インフラを活用し、広域連携により周遊観光を促進する。

- 北陸新幹線沿線自治体等の広域連携による新たなゴールデンルートの定着
- JR等の周遊パス（北陸アーチパス、高山北陸エリア周遊きっぷ、昇龍道フリーバスきっぷ、関西北陸エリアパス等）を活用した誘客プロモーションの実施
- 小松・香港便等、小松空港（国際線、羽田乗り継ぎ、チャーター便）を活用した誘客促進

■各国の市場動向に応じた戦略的な取組みを推進する。

- 各国市場に精通した観光レップ・観光特使等の活用
- エリア別の取組み

<東アジア>

小松定期便を活用した誘客、昇龍道ルートのPRによる訪日リピーターの誘客強化及びレンタカーの利用促進による県内全域への誘客の促進

<東南アジア>

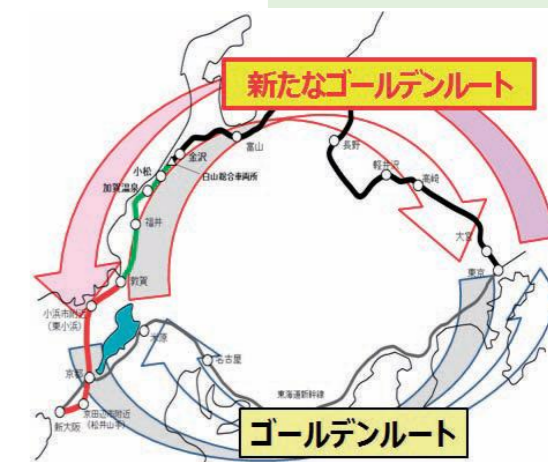
北陸新幹線を利用する新ゴールデンルートや昇龍道ルートのPRによる訪日リピーターの誘客強化

<欧州・米国>

北陸新幹線を利用する新ゴールデンルートの定着及び高い経済効果が期待できる海外MICEの誘致や富裕層誘客の促進

<オセアニア>

北陸新幹線を利用する新ゴールデンルートの定着、高い経済効果が期待できる海外MICEの誘致や富裕層誘客及び冬のアフタースキー客の取り込み



新たなゴールデンルート



昇龍道

■海外MICEの誘致や海外富裕層の誘客を推進する。

- 東京都や京都市等と連携した海外MICEの誘致や海外富裕層の誘客の強化(富裕層見本市への出展、旅行会社の招聘等)

■外国人旅行者向け観光素材の更なる発掘・磨き上げを推進する。

- 旅行商品造成責任者による県内視察、素材説明会の開催

■大規模な国際イベントで日本を訪れる外国人旅行者の本県への誘客を推進する。

- ラグビー・ワールドカップ期間中等に、本県を訪れる旅行者への体験メニューの充実、加賀・能登へのガイド付きモニターツアーの実施

IV 開業効果の多方面への波及、交流基盤づくり

1 開業効果の多方面への波及

(1)石川への人の流れの創出

■県外大学に進学した学生のUターン就職を促進する。

- 「ふるさと石川就職カード (ISica (イシカ))」の発行
- 県外に進学した学生に対する、本県企業の魅力や本県的生活環境等の情報発信の強化
- 三大都市圏における本県企業の魅力発信セミナーや合同企業説明会の開催
- 「いしかわ就職・定住総合サポートセンター」及び「いしかわ移住Uターン相談センター (東京・大阪)」を活用した求職者と県内企業との一元的なマッチング

■県外からの移住・定住を促進する。

- 移住希望者に対する本県の魅力を含めた移住に関する情報発信の実施
- 「いしかわ就職・定住総合サポートセンター」及び「いしかわ移住Uターン相談センター (東京・大阪)」を活用した求職者と県内企業との一元的なマッチング
- 移住希望者が地域の魅力に触れ合える機会の充実
- 地域が移住者を受け入れるための環境整備・意識醸成
- 企業の本社機能の立地促進や次世代産業の創出等を通じた魅力ある雇用の場の創出
- 「いしかわ就職・定住総合サポートセンター」と連携したUターン希望者の移住就農等の促進



いしかわ移住Uターン相談センター (ILAC大阪)



求職者の相談風景

(2) 将来にわたり本県経済を支える強い産業づくり

■豊富な地域資源を活かした新製品の開発を支援する。

- いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドによる新技術・新製品開発支援

■新たな顧客の獲得に向けた受注・販路開拓を支援する。

- 大手企業との技術提案型商談会や受注懇談会の開催
- 石川ブランド製品認定制度を活用した販路開拓支援

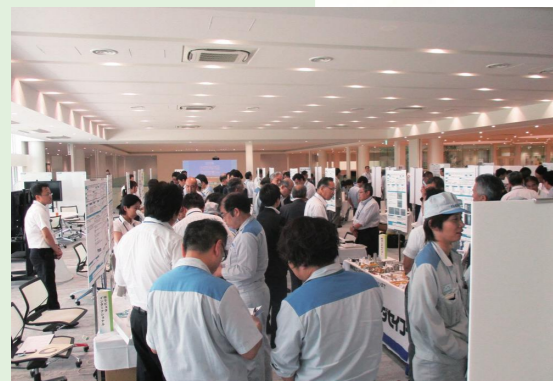
■企業の生産性向上に向けた総合的な支援を充実・強化する。

- AI・IoTの導入支援

(3) 戦略的な企業誘致の推進

■本県の立地環境の優位性を活かし、本社機能の誘致を含めた戦略的な企業誘致を推進する。

- 本社機能に特化した立地助成制度等も活用した、本社機能の移転・拡充の推進
- 誘致企業へのきめ細かなフォローアップの展開、さらなる拠点化の促進



技術提案型商談会



戦略的な企業誘致

2 魅力ある交流基盤づくり

(1) 陸上交通網の充実

■開業効果の最大化に向け、北陸新幹線の利便性向上を国等へ働きかける。

■能越自動車道等の高規格幹線道路の整備を促進する。

■「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想を推進する。

- 時間距離の短縮による県土の一体化の推進
- 陸・海・空の交流拠点との連携強化
- 隣県や三大都市圏との広域交流圏の形成
- 能登・金沢・加賀各地域を巡る回遊性の向上
(国道8号、のと里山海道の4車線化、加賀海浜産業道路の整備促進等)

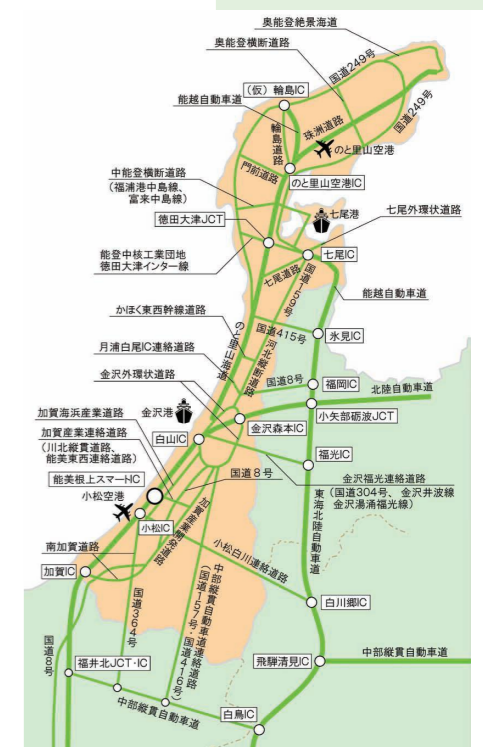
(2) 二次交通アクセスと機能の充実

■関係機関と連携し、公共交通の利便性向上と利用促進を図る。

- キャンバス、観光ガイドタクシーの利便性確保
- 並行在来線の安定的な経営・運行と利便性確保

■観光列車（JR七尾線「花嫁のれん」、のと鉄道「のと里山里海号」）を活用した観光誘客に取り組む。

- 観光列車を活用した旅行商品の造成



「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想



のと鉄道「のと里山里海号」



小松空港



小松・香港便 (キャセイパシフィック航空)

(3) 敦賀延伸を見据えた小松空港の活性化

■敦賀延伸の影響を見据え、航空の強みを活かした国内線の利用促進を図る。

- 羽田便利用旅行商品の造成を通じた首都圏利用の促進
- 福井県民の利用を含めた地元利用の促進
- 羽田乗継の利用促進を通じた新たな需要開拓

■小松空港の優位性を活かし、国際化を推進する。

- 国際定期便各路線の特長を活かした利用促進
- 新幹線を利用した集客による利用者の拡大
- 小松・香港便の安定運航に向けた取組みの推進
- 新規路線誘致に向けたチャーター便の就航促進

■国際航空貨物の集積による国際物流拠点化を推進する。

- 国際貨物便の活性化に向けた新たな貨物需要の開拓

(4) 金沢港の機能強化整備

■金沢港の機能強化整備を促進する。

- 金沢港クルーズターミナル、港内道路、駐車場、緑地の整備

アクションプランの 実現に向けて

1 多様な主体との連携・協働

(1) 県民、企業、市町等との連携・協働

●金沢開業に向け、官民を挙げて取り組んだ経験を踏まえ、県内全線開業に向けたアクションプランの実現に向けても、

- 県民（ボランティア、NPO、市民団体、地域住民）
- 経済界（企業、経済団体・機関）
- 学術・文化関係機関（高等教育機関、教育文化団体・機関）
- 行政（国、県、市町）など

幅広い分野の方々が有する力と工夫、努力を再度結集し、県民総参加で目標に向け連携・協働して取り組む。

●2018年度に実施した、北陸新幹線延伸開業に向けた「いしかわ魅力“再発見”コンテスト」プロジェクト部門において採択された民間団体は、開業効果の発現に向けた先導的なプロジェクトを着実に実施するとともに、県はこうした民間の取組みを支援し、官民を挙げた取組みの拡大を図る。

(2) 広域連携

●北陸新幹線の延伸により、北陸三県で新幹線が開業するとともに、関西圏・中京圏との時間距離が短縮されることを踏まえ、近隣県や北陸新幹線沿線県等との連携をより一層強化し、開業効果の発現に向けた取組みを進めていくものとする。

2 推進体制

- アクションプランの進行管理や全県的な気運の醸成等に取り組むため、2019年度、新幹線・交通対策監室に「開業企画課」を設置する。
- 「アクションプラン推進有識者委員会（仮称）」を設置し、アクションプランに基づく取組みのフォローアップを行う。

1 北陸新幹線金沢開業について

(1) 金沢開業の概要

●2015年3月14日金沢・長野間開業



●時間短縮効果

【金沢⇄東京間】

開業前 3時間47分 → 開業後 2時間28分 (▲1時間19分)
 <特急←(乗換)→上越新幹線>

(参考) 【金沢⇄長野間】

開業前 約4時間(平均) → 開業後 1時間5分 (▲約3時間)
 <特急←(乗換)→普通>

●輸送力

【金沢⇄東京間】(臨時便を除く)

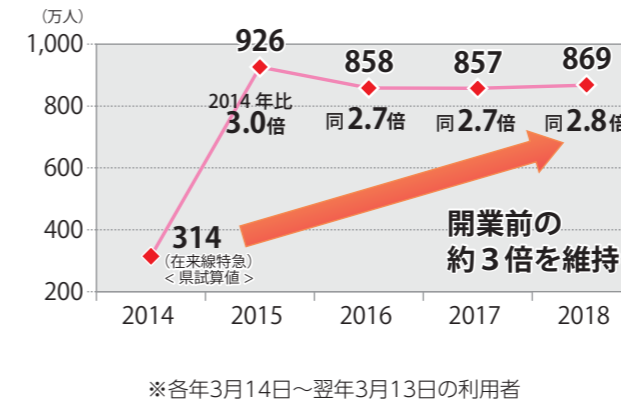
開業前 約480万席/年間 → 開業後 約1,620万席/年間

●天候に影響されにくい安定した運行性

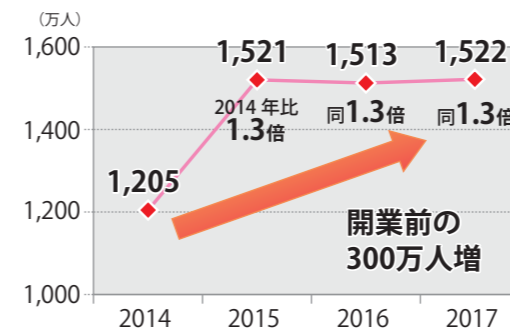
2018年2月の記録的な大雪において、各種交通機関が3日間にわたり麻痺する中、北陸新幹線はほぼ平常運行を維持

(2) 開業による主な効果

●北陸新幹線利用者数



●県外観光入込客数

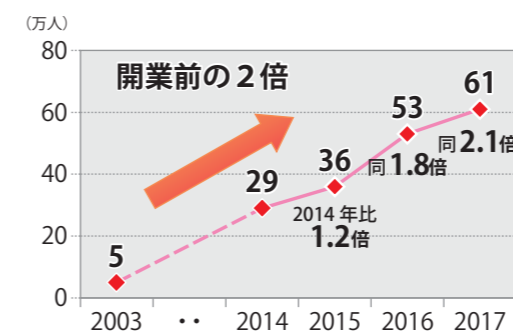


<全県に波及>

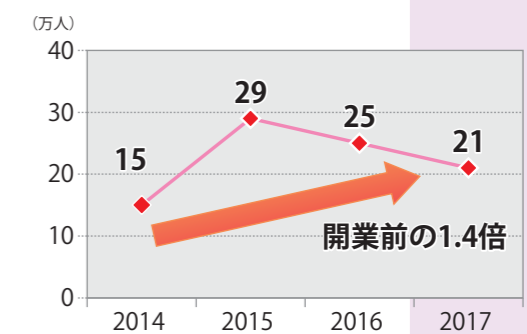
※首都圏からの地域別入込客数

| | 2014年 | 2017年 |
|------|-------|--------------|
| 金沢地域 | 139万人 | 235万人 (1.7倍) |
| 加賀地域 | 31万人 | 56万人 (1.8倍) |
| 能登地域 | 72万人 | 122万人 (1.7倍) |

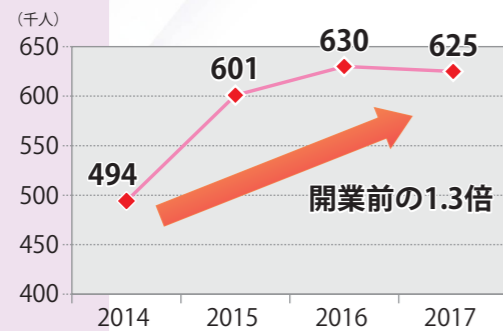
●外国人宿泊者数



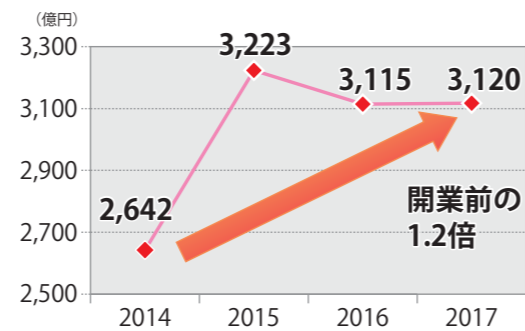
●大規模コンベンション参加者数



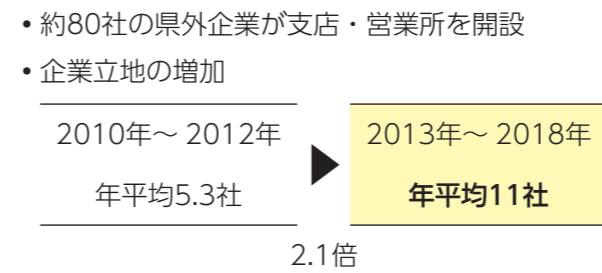
●金沢主要ホテル宿泊者数



●観光消費額

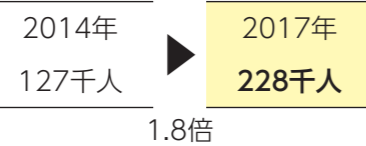


●県外企業の進出



(3) 想定外の効果

●東北からの観光客増



(大宮乗換で仙台-金沢間約3時間半)
⇒東北との双方向の直通新幹線が運行。

●金沢港のクルーズ船の寄港数増

(単位：本)

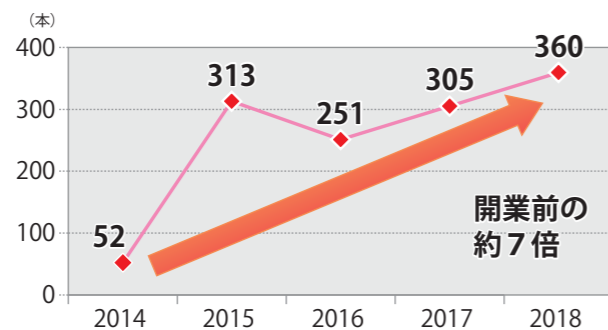
| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全寄港数 | 16 | 19 | 30 | 55 | 47 |
| うち金沢発着クルーズ | 3 | 7 | 22 | 41 | 22 |

新幹線とクルーズを組み合わせた新たな旅行形態「レール&クルーズ」が定着（金沢港発着の日本海周遊クルーズの乗客の4割が首都圏客(2017年)）

(4) 観光面以外の主な効果

●石川県の注目度の上昇

本県を紹介する全国ネットのテレビ番組数



●経済指標の動向

- 日銀金沢支店「北陸の金融経済月報」における北陸地域の景気情勢
2015年 4月 回復している
2017年 4月 緩やかに拡大している
2017年12月 拡大している（バブル期の1991年以降では初めての表現）

●鉱工業生産指数

(2010年=100.0)

| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 石川県 | 125.8 | 127.8 | 130.5 | 141.7 |
| 全国 | 99.0 | 97.8 | 97.7 | 102.0 |

●有効求人倍率

(単位：倍)

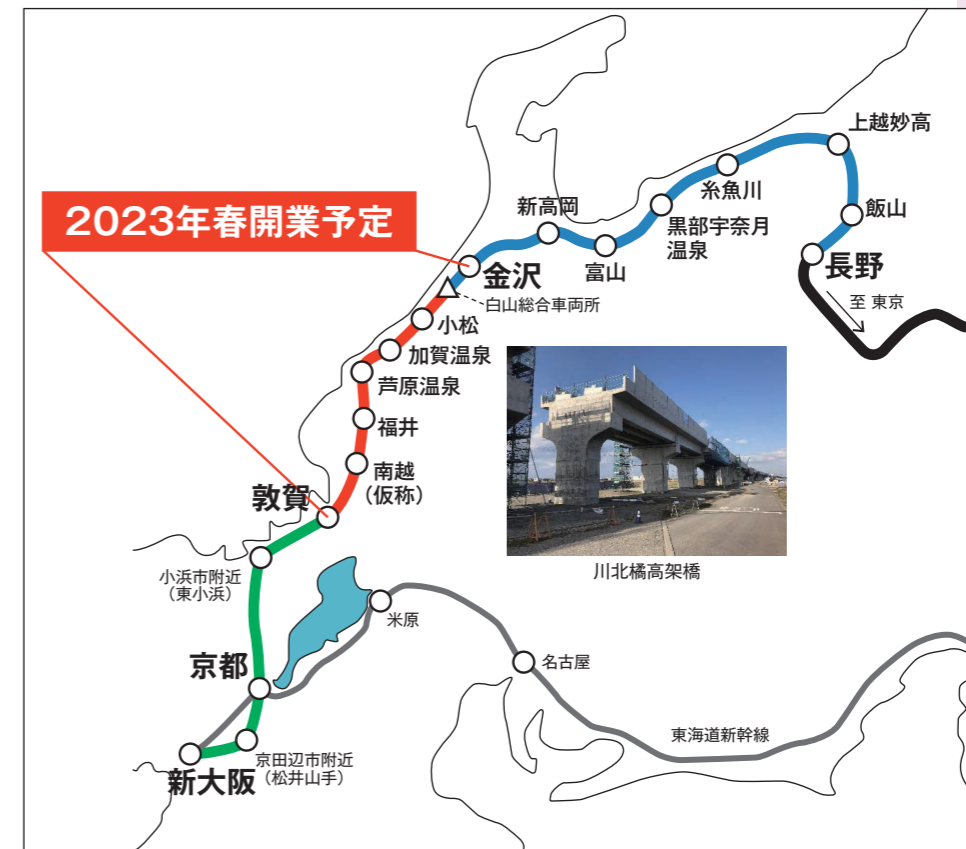
| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 石川県 | 1.41 | 1.48 | 1.67 | 1.89 |
| 全国 | 1.11 | 1.23 | 1.39 | 1.54 |

2 北陸新幹線建設に関する主な経緯

| | |
|----------|---|
| 昭和42年12月 | 北回り新幹線建設促進同盟会結成 (昭和47年7月北陸新幹線建設促進同盟会に名称変更) |
| 45年5月 | 全国新幹線鉄道整備法公布 |
| 48年11月 | 北陸新幹線(東京・大阪間)整備計画決定 |
| 58年11月 | 北陸新幹線建設促進石川県民会議結成 |
| 60年12月 | 高崎・小松間認可申請 |
| 平成元年6月 | 高崎・軽井沢間認可 |
| 3年8月 | 軽井沢・長野間認可 |
| 4年8月 | 石動・金沢間及び新幹線金沢駅緊急整備事業着工 |
| 8年3月 | 小松・南越間認可申請 |
| 9年10月 | 高崎・長野間開業 |
| 10年3月 | 長野・上越間認可 |
| 13年4月 | 上越・富山間認可 |
| 17年4月 | 富山・金沢間認可 |
| 12月 | 南越・敦賀間認可申請 |
| 18年4月 | 白山総合車両基地(仮称)認可 |
| 24年6月 | 金沢・敦賀間認可 |
| 8月 | 金沢・敦賀間着工 |
| 27年3月 | 長野・金沢間開業 |
| 29年3月 | 敦賀・大阪間のルート決定 |

3 北陸新幹線敦賀延伸開業について

●2023年春金沢・敦賀間開業予定



●時間短縮効果

【金沢⇄新大阪間】

現行2時間38分 → 開業後2時間程度 (▲30分程度)

【金沢⇄名古屋間】

現行2時間32分 → 開業後2時間程度 (▲30分程度)

(参考) 敦賀・大阪間について (H29.3ルート決定)

●金沢⇄新大阪間所要時間

約2時間 → 開業後約1時間20分 (▲約40分)

4 北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員名簿

| | |
|---------|---------------------------|
| 安宅 建樹 | 石川県商工会議所連合会会頭 |
| 安念 秋一 | 石川県レンタカー協会会長 |
| 市村 祐二 | 一般社団法人石川県タクシー協会会長 |
| 大砂 雅子 | 金沢工業大学産学連携室教授 |
| 小田 禎彦 | 公益社団法人石川県観光連盟理事長 |
| 加藤 一誠 | 小松空港活性化委員会委員（慶應義塾大学商学部教授） |
| 加藤 敏彦 | 公益社団法人石川県バス協会会長 |
| 笹原 丈光 | 石川県漁業協同組合代表理事組合長 |
| 田上好道 | 石川県商工会連合会会長 |
| 高山 純一 | 金沢大学理工研究域教授 |
| 西 正次 | 南加賀商工観光推進協議会会長 |
| 西沢 耕一 | 石川県農業協同組合中央会会長 |
| 能木場 由紀子 | 石川県婦人団体協議会会長 |
| 濱口 晶幸 | 一般社団法人日本旅行業協会中部支部石川地区委員長 |
| 早川 和良 | 石川県観光総合プロデューサー |
| 東四柳 史明 | 金沢学院大学名誉教授 |
| 福光 松太郎 | 一般社団法人金沢経済同友会代表幹事 |
| 前 哲雄 | 石川県町長会 |
| 前田 洋明 | 西日本旅客鉄道株式会社執行役員金沢支社長 |
| 吉田 仁 | 一般財団法人石川県芸術文化協会理事長 |
| (砂塚 隆広 | 一般財団法人石川県芸術文化協会理事長) |
| 萬谷 正幸 | 加賀温泉郷協議会会長 |
| 和田 慎司 | 石川県市長会・加賀地域連携推進会議会長 |

敬称略、50音順、22名、()内委員は前任者

5 策定の経緯

| | |
|------------|---|
| 平成30年 9月5日 | 第1回北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員会 ・アクションプラン策定の基本的な考え方について意見交換 |
| 9月25日 | 総務企画委員会 ・アクションプラン策定の基本的な考え方について報告 |
| 10月23日 | 地方創生・新幹線対策特別委員会 ・アクションプラン策定の基本的な考え方について報告 |
| 平成31年 2月6日 | 第2回北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員会 ・アクションプラン中間とりまとめ案について意見交換 |
| 2月7日 | 総務企画委員会 ・アクションプラン中間とりまとめ案について報告 |
| 2月8日 | パブリックコメントの実施（～3/7） |
| 3月19日 | 第3回北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン検討有識者委員会 ・アクションプラン最終案について意見交換 |

北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン

石 川 県
平成31年3月

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1316 FAX.076-225-1315

石川県